

No. 189号 (第40号)

2026年3月1日発行

会報「技術士しぞーか」

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone : 080-9194-4715 E-mail : ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長 : 加藤信之 事務局長/広報委員長 : 松世麻理子 会計 : 小澤靖 広報委員 : 森一明、岡井政彦



撮影 : 森一明

2026年2月15日 袋井市内の梅林

目次

◆ 第45回地域産学官と技術士との合同セミナー IN SHIZUOKA	P.2
◆ 山口県災害伝承探訪ツアー参加（加藤信之）	P.4
◆ 山口県災害伝承探訪ツアー参加（山之上誠）	P.6
◆ 第4回例会（見学会）報告／狩野川放水路	P.7
◆ 理科支援委員会	P.8
◆ 第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）参加報告	P.10
CPD 例会とテクノロジーカフェの予定	P.13

表紙の写真説明

撮影場所：袋井市内の梅林

撮影者：森一明（2026年2月15日）

隣家の梅が咲き、先日までの寒さとは打って変わって穏やかな日よりになったので、妻と友人を誘って市内の梅林へ足を運びました。梅が満開でとても良い香りが辺り一面に漂っていました。

第45回地域産学官と技術士との合同セミナー IN SHIZUOKA

1. はじめに

2025年12月13日に地域産学官と技術士との合同セミナーを静岡市において開催した。山口本部長の開会宣言、黒崎会長から本セミナーの起源や経緯等の紹介、静岡県支部と関りが深い興先生の挨拶に続き「自然災害伝承碑から考える防災」をテーマに、各方面で活躍される先生方から講演して頂いた。複雑化し日々変化し続ける社会課題に対して、技術士として技術力に加え異なる視点から柔軟に検討することができ、今後の防災活動にどのようなことが求められているか整理できた。以下、概要を報告する。



興先生（元静岡大学学長）挨拶



加藤支部長より報告

2. 静岡県支部より報告

加藤支部長より静岡県内の69箇所の自然災害自然災害伝承碑（以下、伝承碑）についての報告があった。存在が目立つものがある一方、人に見放された様なものもあり、伝承機能を果たしているとは言い難いものもある。災害碑に限らず、災害伝承の目的の手段を探っていききたい。と報告があった。



岩田先生（静岡大学）の講演



佐藤先生（東北大学）の講演

3. 人は災害と対峙したがない

静岡大学の岩田先生から、『長年住んでいるが、まさかこんな災害が起きるとは思わなかった。』とは災害現場ではよく耳にする言葉である。自然の営みに比べればたかが知れた期間に過ぎない。高度成長期に、それまで人が住まなかった、住めなかった都市近郊へインフラの整備とともに大規模な住宅地や産業施設

■産学官セミナー

が拡大した。そのため、私たちはその土地の災害脆弱性を認識しづらくなっている。伝承碑は災害の一面でしかない。伝承碑から得られる知見を、現在の社会に置き換え、起こり得る災害をもう一度きちんと組み立て直し、対策を見直していくことが肝要である。」と講演して頂いた。

4. 災害伝承の今後の方向性

東北大学の佐藤先生から、「伝承碑があるだけでは、命を守る機能を発揮しないことが岩手県陸前高田市での調査から明らかになった。被災者本人による「生語り」は、映像や音楽、テキスト等の他の媒体より長期的な記憶を維持させることが実験であきらかになった。効果的で持続的な災害伝承には、次の事項が重要である。」と講演して頂いた。次の事項とは以下の5項目である。

- ①ヒトの語りを中心にする
- ②常態化させつつも、固定化しない
- ③災害伝承だけを目的にしない
- ④学校教育と連携する
- ⑤「こわれるもの」「くちるもの」「すたれるもの」をあえて採用すること

5. 活動紹介

神戸市に拠点を置く、一般社団法人災害伝承普及協会から、活動の紹介と「災害伝承検定制度」について紹介があった。また、山口県支部からは、「自然災害伝承碑探訪」活動および「山口・防府豪雨災害の定点観察」活動の紹介があった。



一般社団法人災害伝承普及協会の活動紹介



山口県支部の活動紹介

6. 今後の取り組み

先人が残してくれた伝承碑を訪ね、先人の教えを肌で感じ、さらに技術士としての想像力を発揮して「温故知新」となる様な活動に取り組むこととする。

(記：馬淵大幾)

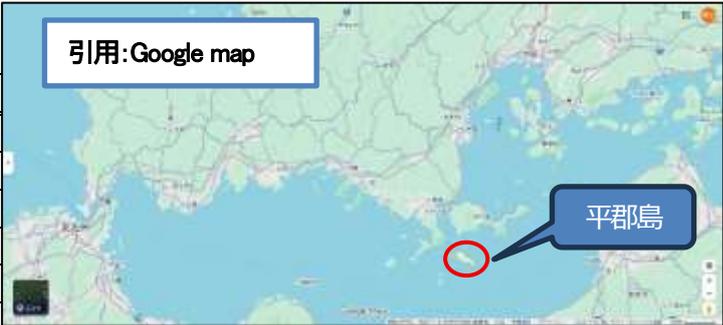
山口県災害伝承探訪ツアー参加（加藤信之）

1. はじめに

2025年度地域産学官と技術士との合同セミナー@静岡では、自然災害伝承碑の意義などについて議論しました。自然災害伝承碑については、日本全国各地で開催し始めているものの、技術士が主催となって開催しているイベントは希少です。今回、山口県支部主催で災害伝承に関する探訪イベントが開催されると情報が入ったので、静岡県支部山之上会員と2名で参加したので、内容を報告します。

イベント概要

第4回自然災害伝承碑探訪 @山口県支部
 日時 2025年11月1日（土）
 場所 山口県柳井市平群島
 参加者 技術士22名、一般15名、合計37名
 次第



時間	イベント	
8:15	柳井港集合	
8:30	柳井港出発	
9:30	平郡西港着	
9:50	平郡西集会場集合	
9:50	防災教育座学	
	あいさつ	
	「南海トラフ巨大地震に備える」	山口大学名誉教授 三浦房紀 氏
	「周防大島町外入の安政南海地震津波到達碑について」	防災士 濱村一男氏
11:00	探訪1 松葉川沿探訪	
11:30	探訪2 鶴甫川津波遡上地（大師堂、大権現）	
	赤石神社、蛇の池探訪	
	探訪3 重道八幡宮	
	探訪4 古民家、石風呂、イブキビヤクシンなど	
14:30	平郡西港フェリー乗船	
15:40	柳井港着	

2. イベント詳細

講演 「南海トラフ巨大地震に備える」山口大学名誉教授 三浦房紀 氏

今回は山口県支部主催のイベントですが、広島から中国本部長、中国本部防災委員長なども参加し、中国本部の防災に関する関心の高さが感じられました。イベントはいきなり大きいものから始めるのではなく、興味がある人たちが少数で開始し、楽しそうに継続すると参加者が徐々に増えていくという構図が想像できます。このような新しいイベントは、まずは楽しくやることから始め、急拡大せず、徐々に広げていくくらいのペースでよいのでは？と改めて実感しました。

講演 「周防大島町外入の安政南海地震津波到達碑について」防災士 濱村一男氏

山口県の周防大島にある津波伝承碑について説明いただいた。伝承碑は設置したが、後世に伝えていく方法が

■ 山口県災害伝承探訪ツアー

大事と伺った。地元の小学校になる「ぼうさいかぞえうた」は東日本大震災を受けたもので、観光スポットとしてもメディアの話題にするにしても伝承碑の普段使いすることが将来の防災につながります。



柳井港フェリー乗り場



防災教育座学の状況

そもそも、平群島とは

山口県柳井市の瀬戸内海の離島、柳井港からフェリーで1時間程度で連絡できます。そもそも、元寇のころから防衛の拠点として重要な役目を持っていて、昭和では人口3000人を超えていましたが、今は200人程度まで減少しています。人口減少が顕著であり、産業は海産物（ひじきなど）が有名。今回の探訪でも空き家と思われる家屋がほとんどで、人が住んでいる気配がある家屋はほんの少ししか確認できませんでした。

探訪2 火伏大権現

平群島西港から徒歩10分程度で到着。標高約9mにある仏像が伝承されているもの。地元の高齢者が言うには、この仏像の根元まで津波が押し寄せたとのことでした。

蛇の池

大権現探訪終了後、車に乗り合わせて蛇の池方面へ進みます。平群島の道路は基本的に道幅は非常に狭く、軽自動車の車幅相当で設計されているように見えます。3ナンバーの普通自動車ではちょっときついのので、蛇の池まではたどり着けず、途中で下車しその後は徒歩で向かいました。徒歩区間はそれほどない認識でしたが、実際はかなりの距離があり、さらにアップダウンがあるため、伝承碑探訪イベントというよりもウォーキングイベント、軽登山イベントではないか(笑)と勘違いしました。

蛇の池に行く道路の両脇は昔、田んぼに使ったと説明を受けました。現在は樹木が生い茂っていてそのような面影はありませんが、崖の下を見渡すと棚田として使用した感じが見受けられました。段々になっている地形、段の垂直面は石を積んで補強してある、などを考えると、昔は人間がこの土地を使用した歴史が感じられました。今はひじき漁しか残っていない様子で少々寂しいですが、地元の方々が海岸を生業として使っていることを考えると感慨深いところがあります。

蛇の池から戻るときは行きのルートの戻りになり、やはりアップダウンがきつかったです。行きは行き先が見えない状態でまだかまだかとひたすら歩くだけでしたが、帰りは一度ルートを把握していることもあり、後だけ頑張ればゴールにたどり着けるかわかるので、自動的に頑張れる状況でした。

(記：加藤信之)



火伏大権現



蛇の池

山口県災害伝承探訪ツアー参加（山之上誠）

はじめに

令和7年度の産官学セミナーのテーマは「自然災害伝承碑から考える防災」。テーマにした理由は、昨今の各地で起こる自然災害では防災のためハード対策だけでは十分な効果を得られないことがわかってきた。命を守るために、ハード対策を補完し、ソフト面で防災を考えるきっかけになると思われる自然災害伝承碑を改めて取り上げてみた。

1. 山口ツアーの目的



柳井港フェリー乗船前

山口県支部では継続的に自然災害伝承に関するツアーを行っているが、令和7年11月1日にツアーの計画を実施する情報を得た。具体的には、江戸時代の安政南海地震により津波災害を受けた瀬戸内海の平郡島を訪れることにより津波の伝承を参加者が現地にて確認する目的がある。

2. 山口ツアーの内容

平郡島には柳井港から約1時間フェリーでかかるが集合地は山口市内であり現地まで片道3時間程度を要した。島内では、集会所にて南海トラフ巨大地震に関する講演、地元詳しい防災士の先生から話題提供を受けた。総勢50人程度、内、地元住民が15人、技術士が22人参加した。残りは、山口県の行政関係者が含まれている。伝承碑は存在しないので津波伝承を伝える場所の確認などを行った。



南海トラフ巨大地震に関する講演



地元の防災士による講演

3. 静岡県支部が学びたいこと

静岡県にも自然災害伝承碑は存在する。同様のツアーを開催するために場所の選定、参加人数の規模、座学を含むか否か、以上の内容をマニュアル化することは可能と考える。

ツアーのポイントは、集客のためにその土地に伝わる災害の脅威について口で伝える伝承の提供者が必要です。被災地域の降雨量など過去との違いを比較し住んでいる地域の防災を改めて学ぶ機会としたい。



津波伝承の場所を探訪

4. 最後に



建設した荒谷橋

山口ツアーに参加する機会を頂いた山口県支部の内山様には、改めて御礼申し上げます。

私は、昭和53年～2年半中国自動車道の建設に従事しました。その後は、山口県の荒谷ダム建設前に谷部を架橋する荒谷橋建設にも従事しました。山口県には縁があり、今後も山口への往来は続きそうです。

(記：山之上誠)

第4回例会（見学会）報告／狩野川放水路

1. はじめに

去る2025年11月7日に第4回例会として狩野川放水路に関わる講演会および狩野川放水路長岡トンネルの見学会を行いました。狩野川は長年水害に悩まされていた河川であり、古い記録では709年（飛鳥時代）に洪水が起こったという記録があります。

戦後、中流から駿河湾にバイパスする放水路の建設が1951年から始まりました。残念ながら放水路の完成を待たずして、1958年台風22号（狩野川台風）による被害を受け、1000人を超える死者・行方不明者を出すことになりました。

2025年は狩野川放水路完成60年の節目の年であるため、この機会に狩野川放水路の役割について再考するために本見学会を企画いたしました。また、静岡大学では放水路による沿岸域への生態系影響について研究されておりましたので、研究プロジェクト代表の塚越教授より研究内容についてご講演いただきました。

2. 狩野川放水路がもたらす河川流域と沿岸域の生物に及ぼす影響

当日、参加者13名は三島駅北口に集合し貸切バスにて、講演をお聞きする静岡大学東部サテライトに向かいました。静岡大学東部サテライトは伊豆市にある静岡大学の東部の拠点であり、普段は公開講座などが開かれております。到着後、静岡大学理学部教授の塚越哲先生より「狩野川放水路がもたらす河川流域と沿岸域の生物に及ぼす影響」というタイトルでご講演いただきました。



塚越先生によるご講演

本研究は5か年、10人の研究者によって行われ、幅広い視点で放水路の生態系への影響を研究されています。流況変化をシミュレーションによる解析とモデルにより調査しそれを元に生態系影響を研究されていました。狩野川は県内の他の一級河川に比べて

NO₂-、NH₄⁺のミネラル分が顕著に多いことが報告されました。放水路が注ぎ込む江浦湾は放水路開放時に植物片が大量に流れ込む低酸素環境となります。今回の研究では今まで低酸素環境では生きできないとされていたサクラガイなども産出され、これらの化学合成細菌の共生の可能性が示されました。

講演後、研究実際に使用された狩野川放水路分岐点付近の模型や各研究のパネルを見ながら塚越先生に直接質問する時間を設けました。

3. 狩野川放水路長岡トンネル見学

その後、参加者は再度バスに乗り込み、伊豆の国市の狩野川資料館に向かいました。到着後、沼津河川国道事務所伊豆長岡出張所長である宮城様のご案内で約600メートル歩き、通常は入れない狩野川放水路長岡トンネル内部まで入り見学を行いました。

高さ11メートルの長岡トンネルを自分の目で見る事が出来たとともに、過去の水害時の最高水位も確認し、この放水路によって水害がかなり抑制できていることが、身をもって体感できました。また気候変動による水害リスクの増大から放水路の改修等が検討されている旨のご説明もありました。



長岡トンネル見学

4. まとめ

今回の見学会を通して、狩野川放水路の役割やその影響について理解することができました。今後も現場を見る事により大きな知見を得られる現場見学会を企画したいと考えております。皆様のご参加をよろしくお願いいたします。最後になりましたが大変お忙しい中、ご協力いただきました塚越先生、静岡大学の皆様、沼津河川国道事務所伊豆長岡出張所の皆様に心より御礼申し上げます。

（記：CPD委員 森田一徳）

理科支援委員会

1. 2025年の授業

静岡県支部の理科特別授業について、2025年度は6校、7教科の理科特別授業を実施しました。

富士市立富士川第1小学校

(9月2日)「水中に住む小さな生き物を観察しよう」 6年1組、2組

(11月18日)「地下の地層を見てみよう」 6年1組、2組

富士宮市立上野小学校 (9月4日)

「私たちのくらしと防災 (大津波と液状化)」

5年1組、2組

沼津市立沢田小学校 (9月17日)

「太陽と地球と月の関係」 6年1組、2組

浜松市立舞阪小学校 (11月13日)

「水溶液の性質を利用して水をきれいにしよう」

科学クラブ

磐田市立磐田西小学校 (12月10日)

「クロームブックで正多角形をいろいろ書いてみよう」

6年1組、2組、3組

静岡大学工学部 「テクノフェスタ in 浜松」

「ふりこの不思議な世界にふれてみよう」

(11月8日、9日) 6回のふりこの実験教室



<授業風景>



<サラダ油ランプの缶にサラダ油を注ぐ>

2. 理科授業風景

以下に授業風景を紹介します。

【富士宮市立上野小学校】

「私たちのくらしと防災 (大津波と液状化)」

講師：馬淵大幾さん (建設)

授業プログラム：

- i. 最近よくおきる大きな自然災害と地震・津波がおきるしくみ
- ii. 南海トラフ巨大地震と津波の予想
- iii. 災害に対する私たちの心がまえ！
- iv. 地震時の液状化現象とサラダ油をロウソクみたいに使う実験

講師感想

液状化の実験は楽しそうだった。面白がって繰り返し3回した子供もいた。授業は楽しくないと身につかないと改めて感じた。身近にある物を使って、道具を作る工夫ができる子供になって欲しいと思います。

【テクノフェスタ in 浜松 (静岡大学工学部)】

「ふりこの不思議な世界にふれてみよう」

参加講師

吉田建彦、松世麻理子、岡井政彦

萩原利行、深澤陽子

... 5名



<吉田さん>



<萩原さん（ふりこは全て手作りです）>



<松世事務局長も奮闘>

3. 提案している授業プログラム

静岡県支部からは下記の多様な授業を提案しています。

- ・昼と夜はなぜ生じるか。
- ・太陽と地球と月の関係

- ・地層を構成する「れき・砂・泥」の標本づくり
- ・地盤に関わる様々な災害を実験でみてみよう
- ・地震が起きる仕組みと地震の被害
- ・ワークショップスタイルで、災害について考えてみよう♪

(意見を出し合って災害について考える)

- ・マイ・タイムラインを作ってみよう♪
- (自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る)

- ・ふりこの特性と応用
- ・モーターを作ってみよう
- ・見えない世界を見てみよう！
- (手作り顕微鏡による身近な観察)
- ・生態調査って意味あるの？
- (校内に生息している生物（動物、植物）を調べる)

- ・微生物の力で生ゴミを減らすぞ！
- (微生物のすごい力)
- ・プログラミング的思考を学ぼう
- ・「暗くなったら自動で点灯する」装置を動かしてみよう

- ・整数の1から1000までの和を求める。(コンピュータを算数に応用してみよう)
- ・二酸化炭素・ドライアイスを使った実験で化学を楽しもう

- ・ベアリングのお話と技術者の仕事
- ・花火の色がなぜ赤かったり黄色だったりするのだろうか？

- ・身の回りの科学 温度と物の変化
- ・作って飛ばそう！
- (びっくりするくらい飛ぶジャイロプレーンや紙トンボ作り)

支部に登録されている講師の会員数：10人

県支部で準備しているこれらの授業と中部本部の理科授業委員会分と合わせて総計70科目ほどの授業プログラムを、教育委員会を通じて県内小学校に授業提案をしています。

2026年度も、岐阜県支部、愛知県支部、三重県支部の各理科委員会と協力して小学校の要望に応じていきたいと考えておりますので、本理科授業にもっと多くの技術士会会員の協力をお願いします。

(記：理科支援委員会 岡井政彦)

第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）参加報告

1. はじめに

第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）が熊本市で開催されました。現地で参加したので概要をお伝えします。

2025年10月25日（土）～28日（火） 熊本城ホール

日時	行事内容		会場	
10/25（土）	10:00～17:00	関連行事（一部の部会・委員会）		3階 A～Hほか
	17:30～19:30	ウェルカムパーティ		3階 A3・A4
10/26（日）	9:00～12:00	第1分科会	防災―連携のチカラ	3階 A1
	9:00～12:00	第2分科会	青年―ミライのチカラ	3階 C1・C2
	9:00～12:00	第3分科会	地域―高まるチカラ	3階 D1・D2
	9:30～12:00	第4分科会	人材―はばたくチカラ	3階 E1・E2
	13:30～14:20	大会式典		2階 シビックホール
	14:30～15:00	分科会報告		2階 シビックホール
	15:20～16:40	記念講演		2階 シビックホール
	17:30～19:30	交流パーティ		3階 A3・A4
	9:00～16:45	パートナーズツアー		
10/27（月）	8:00～17:00	テクニカルツアーA		
	9:00～17:00	テクニカルツアーB（1日目）		
10/28（火）	8:30～17:00	テクニカルツアーB（2日目）		

この中で、10/25（土）午後：A/H サントリー熊本工場見学と10/26 午前は選択参加となっていたので、以下のイベントに参加しました。10/26（日）：第4分科会 人材―はばたくチカラ

2. 参加イベントの内容

➤ 電気電子部会 サントリー熊本工場

自分の所属する電気電子部会として、サントリー熊本工場の見学とあったのでこちらを申し込みました。こちらの工場は、ビール、焼酎（チューハイ）、天然水の3種類を生産するマルチタスク工場になり、酒造業界では珍しいとのこと。今回はビール生産工程の見学がメインで、工場見学はいわゆる一般向けの工場見学ではありませんが技術士としてもかなり興味がある内容でした。

まずは、ビールの製造工程の概要紹介から始まります。概要説明は壁を立体的に変形させた3Dプロジェクト的なプレゼンテーションで、画像が立体的に見えて理解しやすかったと思います。特に気になったのは、各工程での数値管理の徹底です。各製造工程の温度、圧力は徹底的に管理され、ほとんどが自動制御されています。作業者は現場にはほとんどおらず、専ら事務所でパソコンのモニターを見ている状況です。少ないタイミングですが作業も現場に出てきて、機械のメンテ等の人間が作業しないとできない工程のみを作業しています。作業者の安全管理も徹底されていて、工場内の通路を横断するときも指差呼称で安全管理が徹底されていたことも見ることができました。機械化が進む一方で、この工場では人間の官能評価も同時に発展させています。工程の途中の検査では研修を受けた作業者が味や香りの管理をしています。AIが発展する現在でも味や香りの自動検査化はまだ研究段階であり、まだまだ人間に頼るしかない状況です。AIに指示をするにしても、指示する側の人間がしっかりした判断ができないことには始まりません。いずれはこの仕事もAIに置き換わる日が来るかもしれませんが、人間の能力の発展にも注目していきたいと感じました。

ちなみに、ビールの味を決めるのは、麦芽、ホップ、水の組み合わせです。サントリー社の場合、麦芽はチェコ周辺のダイヤモンド麦芽を配合、ホップも欧州産を使用、さらに、水については地元阿蘇山の地下水を使っていて、このゴールデン組み合わせは世界を見回してもほとんどないようです。特に、天然水を使用しているビール工場は稀らしいので、今回の工場見学は、非常に貴重な経験でありました。乾杯！



図1 試飲ビール

➤ **ウェルカムパーティ**

工場見学終了後、バスで熊本城ホールに移動し、17時半からウェルカムパーティに参加しました。今回は約300名参加と聞いており、部屋の広さと比較するとかなり密集していた印象です。いつもの演奏では、今回はジャズの異色デュオ（ボーカル、ギター）でした。最初はジャズのスタンダードナンバーを歌っていましたが、ジャズを知らない方が多かったのかイマイチ盛り上がりには欠けていました。途中でJ-POP（松田聖子など）の昭和ナンバーを歌い始めると、皆さんの食いつき度が変わってきてかなり盛り上がりはありました。私的にはジャズのナンバーが好きだったので最初の方がよかったのですが、昭和歌謡が好きな方は仕方ないですね(笑)。



図2 会場の様子

料理メニューも現地熊本名物の「一文字ぐるぐる」、「からし蓮根」、などもあり、人数が多いせいもあったのかあつという間になくなりました(笑)

お酒の方も、樽酒が2樽出てきて、こちらは大盛況。その他熊本名産の球磨焼酎もたくさんあり、いつものように盛り上がりはありました。いつも思うのですが、お酒の量はかなりのものと推測します。みなさん二日酔いは大丈夫だったのでしょうか？これが楽しみで来られる方もいらっしゃると思います。その気持ち、なんとなく理解します。



図3 一文字ぐるぐる

➤ **第4分科会**

日曜午前の分科会は、第4分科会 人材育成—はばたくチカラ 「人口減少社会における人材育成」に参加しました。今回の分科会は4つありましたがどれも興味がありすべてに参加したかったのですが、今私が勤務している会社でも少子化の折、人材についてかなり問題視しているのでこちらを選択しました。

ここでは、数名の講師の方に人材育成に関する講演をしてもらいましたが、中でも興味があったのが九州大学の深堀先生です。日本の技術分野を開かれた状態にしないと、いわゆる「ガラパゴス化」に陥ってしまいます。携帯電話で「ガラケー」という造語もできましたが、私が所属する電気電子の世界でも一時期半導体製造のガラパゴス化で軒並み日本の半導体企業が撤退したのを思い出します。このような事例を反面教師とし、いろいろな技術もオープンにして他分野と協力し、前に進むしかないとのこと。人口が減少し労働人口も減少していく中、世界とトップを争うためには各企業同士手をつなぎ協力するしかありません。



図4 会場の様子

そうするためには、若い時期から世界と触れ合う機会をたくさん設けてあげるなどの導きが有効であるなど、新しい考え方を知ることができ有用な講演でした。

➤ **記念講演 九州大学名誉教授 松田 泰治 氏**

2016年熊本地震に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～

2016年に熊本地震が発生し、多くの方が被災しました。ここにお見舞い申し上げます。

熊本地震では多くの家屋が倒壊していますが、その多くは木造の古い家です。台湾集集地震や阪神淡路大震災を契機として建築基準が変わり、最近の建築物は新しい耐震基準で設計しています。熊本地震で倒壊した家屋は旧設計基準で設計した建物になりますので、阪神淡路大震災の結果を有効に使った事例と言えます。その他、上水道のパイプを割れにくいポリエチレン管にする、ガスのマイコンメーターの普及など、地震発生時の液状化を見据えたインフラ整備につながっています。

さらに、最近ではデータのデジタル化が進んでいます。ドローンを筆頭とした航空写真データベースや実際の被災地の航空写真データなどがその事例です。被災地を支援するためには現地の状況が分かるデータ取得が大前提ですが、そのデータが簡単に収集できるのは技術の進歩のおかげです。ただし、その使い道やデータ公開方法などは注意が必要で、昨年の能登地震ですが、車載ナビゲーション通信データを使用すると通れる道路がはっきりしますが、逆にその道路に車が集中し渋滞が発生しました。その結果、生命の生死の境目と言われる72時間内に救助が現場にたどり着けない状況が発生した事実があります。現地のデータを公開するのは大事ですが、そのタイミングや公開先などは十分に副作用を考慮する必要があるなど、過去の経験を未来に生かす工夫が必要と考えます。

➤ 交流会

テクニカルツアー以外の行事が終了すると、いつもの大交流会です。会場はウェルカムパーティと同じ場所ですので、さらに混雑が進んだ印象でした。盛況な感じはウェルカムパーティ以上ですので、細かい話は省略しますが、お酒の量、料理の量も前回以上と思います。しかし、皆さん本当にお酒が好きなんです（笑）

➤ 番外編 青年交流会

交流会終了後、訳あって青年の交流会に参加しました。近くのバーを貸切で、お酒も飲み放題で、料理も食べ放題です。お酒は天下の森〇蔵も頂きました（九州本部様ありがとうございます）、これ以上ない幸せでした。

青年の交流会は、時間ごとに席が変わるルールになっていて、最終的には参加者全員と知り合える設定にしています。20分ごとに目まぐるしく座席変更になりますが、結局はかなりの人数の皆様と名刺交換することができました。ある意味合コン風ではありますが、このようなイベントも有用では？と思いました。ご年配の方々も参加されると面白いかもです。技術士会のイベントを企画するのであれば、このような交流を深められるものが楽しいです。このようなイベントが増えると、若い技術士の参加も増えるのでは？と期待します。



図5 用意されたお酒の様子

➤ まとめ

技術士全国大会は毎年各地で開催され、300人単位の大規模イベントです。参加のための費用的にはかなり高額で自腹を切って参加はなかなか厳しいと思います。正直、それだけの価値があるのか？と思うとなおさらです。ただし、個人開業している技術士の皆様は唯一の交流イベントとなりますので、参加費を払っても参加する意義はあるのだと思います。今後参加者の負担が軽減することを期待します。

とにかく、楽しければ正解！ということでしょうか。

（記：加藤 信之）

CPD 例会、テクノロジーカフェ

CPD例会 実績と予定

名 称	日 程	内 容
支部年次大会 第1回記念講演	2025年5月31日(土)	記念講演 「静岡県における森林の現状と針広混交林への誘導による生態系サービスの向上」 静岡大学教育学部教授小南陽亮氏
第2回例会	2025年8月16日(土)	テーマ 「持続可能な静岡の「農業」と「食」の最新動向」 講演1 「静岡農業の課題と今後必要な取組」 関東農政局静岡県拠点 地方参事官 河合 亮子 氏 講演2 「風味のデジタル解析技術」 静岡県立大学 准教授 伊藤 圭祐 氏
第3回例会	2025年10月18日(土)	テーマ: これからのエネルギー政策と再生可能エネルギーマイクログリッドの実際 講演1: 「世界のエネルギー情勢と日本の産業と生活への影響」 常葉大学 名誉教授 山本隆三氏 講演2: 「再生可能エネルギーだけで構成されるマイクログリッドの構築と運用〜PV・BESS の最適容量推定と発電機の制御〜」 静岡大学大学院 准教授 松尾廣伸氏
第4回例会	2025年11月7日(金)	テーマ: 「狩野川放水路完成60年、放水路の役割とその影響」 講演: 「狩野川放水路がもたらす河川流域と沿岸域の生物に及ぼす影響」 静岡大学教授 塚越哲氏 見学会: 狩野川放水路長岡トンネルおよび狩野川資料館
産学官セミナー	2025年12月13日(土)	テーマ: 「自然災害伝承碑から考える防災」 講演1: 自然災害への取組みと災害伝承 静岡大学防災総合センター 客員教授 岩田孝仁 氏 講演2: 「災害伝承」に関する研究・活動の紹介 東北大学災害科学国際研究所 准教授 佐藤 翔輔 氏 講演3: 自然災害伝承碑を活用した災害伝承を学ぶイベント事例 一般社団法人災害伝承普及協会 代表理事: 承山 理央 氏 理事: 伝宝 照明 氏 講演4: 自然災害伝承碑探訪の取組み 日本技術士会中国本部山口県支部 技術士(建設、総合技術監理部門) 内山省三 氏
第5回例会	2026年2月21日(土)	テーマ: 新しい時代の技術者倫理 「技術者倫理2.0」(人と組織と社会のwell-beingのために) 早稲田大学 大学総合研究センター 札野 順 教授

■テクノロジーカフェ 実績と予定

日 程	内 容
2025年4月17日(木)	「電気自動車のギモン全てお答えします！」 森田一徳会員 (電気電子部門)
2025年6月19日(木)	「地盤がもたらす災害事情 -地質屋が指摘する地盤のあれこれ-」 秋山尚之 (建設、応用理学部門)
2025年8月7日(木)	「若者のモチベーションアップ」 鈴木宣二会員 (経営工学部門)
2025年10月16日(木)	「再生可能エネルギーと風力発電」 服藤正明会員 (機械、金属、経営工学、環境、総合技術監理部門)
2025年12月18日(木)	「道路のことがわかるお話」 田中寛会員 (建設、総合技術監理部門)
2026年2月19日(木)	「電気を遠くへ送るには」 岡井政彦会員 (電気電子部門)
2026年4月16日(木)	「持続可能性に向けた生物工学のアプローチ」 萩原利行会員 (生物工学部門)

■編集後記

2月8日の朝、静岡市内の我が家の庭に雪が薄く積った。庭に居ついている野良ネコは庭の隅この物置小屋の床下にじーっと固まったまま。九州の田舎から出てきて48年、温暖な静岡を実感していたが、久しぶりの雪(過去1回雪が降ったことがあったような・・・)、思わず雪風景写真をパシャした。(岡井)

産学官、山口県災害探訪ツアー、熊本全国大会、例会など盛りだくさんな内容でした。執筆者の皆様ありがとうございました。(森)

今年の技術士全国大会は金沢だそうです。11月の兼六園は紅葉が見頃でしょうか?行ってみたいです。(松世)

12月の産学官セミナー無事終了することができ一安心です。これも皆様のご協力のおかげです。これからも面白いイベントを考えていきますので、みなさんまた遊びに来てください。(加藤)



事務局：〒424-0943 静岡県静岡市清水区港町 1-5-6

TEL：080-9194-4715 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp

<http://ipej-shizu.sakura.ne.jp/>